

# 「教育の情報化」推進計画

(輪之内町第11次情報教育推進事業) R2年度～R4年度

## 輪之内町学校教育の情報化プラン (2019～2023) 基本目標

全ての教員が、ICT機器を従来型の学習形態(板書・ノート・説明・体験活動等)と融合させて活用するとともに、情報活用能力を段階的に指導し、学習の基盤となる資質・能力を育成します。また、子どもたちが仲間と協働しながら主体的・対話的で深い学びができる授業を創造するための指導改善に努め、子どもたちに「生きる力」につながる確かな学力を育む教育を実現します。

## テーマ

# 「1人1台端末」を活用した授業改善と情報活用能力の育成

### 情報活用能力の育成

【輪之内町の現状】  
 ・ICTを活用した情報の収集や整理・編集のスキルを身に付ける取組について充実させる必要がある。  
 ・先行したプログラミング教育の取組により、全校での授業実践ができ、児童のプログラミングの思考が育成された。  
 ・時勢に沿った情報モラル、情報セキュリティの指導を充実させる必要がある。  
 【目標】  
 ○society5.0(超スマート社会)に求められる、基本的なICT活用スキル等を身に付けている。  
 ○児童生徒が、持続可能な社会の構築を実現するための、プログラミング的思考等の問題解決能力を身に付けている。  
 ○児童生徒が、いつの時代にも誠実に情報活用を行うことができる情報モラル・セキュリティに関する価値判断力を身に付けている。

- ①情報活用の実践力の育成  
・「調べる・まとめる・つたえる」
- ②プログラミング教育の実践・検証  
・1人1実践を活かした指導計画の作成
- ③情報モラル、情報セキュリティの指導  
・発達の段階に応じた指導

### ICTを活用した授業改善

【輪之内町の現状】  
 ・教員が授業でタブレット等ICT機器を活用すると、児童生徒の学力向上に効果があることがわかった。  
 ・ICTを活用した家庭学習の実践、効果的な評価への活用は少ない。  
 【目標】  
 ○教員が各教科の授業について、「1人1台端末」を活用することで「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を行うことで、自己の資質・能力を向上させている。  
 ○「1人1台端末」を活用し、学習指導や家庭学習、評価に関わるデータを適切に収集、管理、活用することで、指導と評価の一体化が達成できている。

- ①ICTを活用した授業実践  
・協働的な学習、個別最適化された学習
- ②ICTを活用した家庭学習  
・オンライン授業、eラーニング
- ③ICTを活用した効果的な評価  
・「G Suite for Education」の活用

### 校務の情報化

【輪之内町の現状】  
 ・全小中学校で校務支援システム・グループウェアの運用をしている。  
 ・校務の効率化を図り、子どもと向き合う時間の確保が必要である。  
 【目標】  
 ○情報漏洩や災害に強く、活用しやすい情報セキュリティの環境システムの構築がされている。  
 ○教員のワーク・ライフバランスが改善され、心のゆとりをもって子どもと向き合う時間が確保されている。

- ①「働き方改革」につながるICTを活用した校務のスリム化  
・校務支援システム、グループウェア 等

令和2年度	令和年度3	令和4年度
指導すべき内容の整理	事例の収集	事例の収集、追試と修正
事例の収集(1人1実践の実施)		事例の整理→指導計画
ICT活用部会にて基礎研究	事例の収集	事例の整理→指導計画
事例の収集	事例の収集と整理	事例の収集、追試と修正
ICT活用部会で調査研究と実践	各校での実践と検証	全小中学校での運用
ICT活用部会で調査研究と実践	各校での実践と検証	全小中学校での運用
県統一の統合型校務支援システムへの移行の検討	統合型校務支援システムへの段階的な移行	統合型校務支援システムへの完全移行

※定例教育委員会において達成状況のチェックと計画の見直し(PDCA)  
 ※実践と研究を繰り返すことで「だれもが使えるICT」を目指す。(即時のHPアップ等で情報共有)

## 情報化を支える環境等

- ①「1人1台端末」環境整備
  - ・タブレット端末の整備
  - ・ネットワークの構築

- ②教職員研修
  - ・ソフトウェアの効果的な活用方法
  - ・実践につながる体験を通じた研修

- ③ICT指導員
  - ・授業における指導
  - ・最新の活用方法の研究と指導

